

2021年12月13日

一般財団法人 化学及血清療法研究所

## 2021年度『化血研研究助成』及び『化血研若手研究奨励助成』の 助成対象者が決定しました

一般財団法人 化学及血清療法研究所（理事長：木下 統晴、所在地 熊本市中央区）は、このたび開催されました理事会において、2021年度『化血研研究助成』6件、『化血研若手研究奨励助成』10件、計16件の助成対象者を決定いたしました。

各プログラムの「助成対象者一覧」、および選考委員長からの「審査講評」は下記の通りです。

### 記

#### 【化血研研究助成】

感染症領域（人獣含む）及び血液領域を対象とした研究に対して助成を行い、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：3,000万円（1,000万/年×3年間）/件

助成期間：3年

採択件数：6件（申請件数116件：採択率5.17%）

### 助成対象者一覧

#### 【化血研研究助成】

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
新井 文用	九州大学 大学院医学研究院	教授	シエルタリン複合体因子群による造血幹細胞のストレス保護機構
合田 圭介	東京大学 大学院理学系研究科	教授	敗血症性 DIC のデータ駆動型研究
朝長 啓造	京都大学 ウイルス・再生医科学 研究所	教授	人類の脅威となりうる新興・再興ボルナウイルス感染症の制御に向けた基盤研究
中川 一路	京都大学 大学院医学研究科	教授	細菌糖鎖認識のニューパラダイム：非定型ユビキチン化によるゼノファジー制御の解明
山本 雅裕	大阪大学 微生物病研究所	教授	抗トキソプラズマ生体防御応答とその破綻による病原性発揮メカニズムの解明
吉見 昭秀	国立がん研究センター 研究所 がん RNA 研究ユニット	独立 ユニット長	ミスプライミング産物の時空間的運命の決定と白血病新規治療標的の同定

【化血研若手研究奨励助成】

感染症(人獣含む)領域及び血液領域を対象とした次世代の研究者の育成に資するために、将来有望な若手研究者の研究を奨励助成し、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：300万円 (年間300万円)/件

助成期間：1年

採択件数：10件(申請件数194件：採択率5.15%)

助成対象者一覧

【化血研若手研究奨励助成】

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
植田 航希	福島県立医科大学 輸血・移植免疫学講座	講師	細胞間相互作用に着目した、骨髄増殖性腫瘍やクローン性造血から急性白血病への進展予防法の開発
大手 学	東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座	講師	ウイルスに特殊なRNA高次構造を誘導する新規機構の解明
加藤 浩貴	東北大学病院血液内科	助教	MAT2Aを標的とした新しい自己免疫疾患治療法の確立
白銀 勇太	九州大学大学院医学 研究院	助教	新概念「受容体模倣シス膜融合誘導」による麻疹ウイルス中枢神経病原メカニズムの解明
住友 倫子	大阪大学 大学院歯学研究科	講師	ウイルス感染に伴う上気道定着細菌のニッチ拡大と肺炎の病態形成を規定する宿主・細菌因子の探索
*平松 征洋	大阪大学微生物病研 究所	助教	宿主感染時に高発現するsmall RNAを介した百日咳菌の病原性発現制御機構の解析
松崎 潤太郎	慶應義塾大学薬学部	准教授	細胞外小胞を用いたCOVID-19制御戦略の構築
見市(三田村) 文香	佐賀大学医学部	講師	赤痢アメーバ環境耐性を担う“球形”シスト壁の形成機構の解析
村上 紘一	慶應義塾大学医学部	助教	単一細胞における遺伝子・蛋白質発現同時解析による造血器腫瘍の病態解明
渡邊 洋平	京都府立医科大学大 学院医学研究科	講師	ゲノム複製動態に基づく新興ウイルスに普遍的なサイトカインストーム誘導機序の解明

\*2025年3月12日付で採択取り消し

## 審査講評

化血研財団は昨年度に引き続き、本年度（2021）も、感染症領域および血液領域を対象とした研究に対して助成を行いました。本年も COVID-19 流行下にあり、面接審査はできませんでしたが、昨年同様、両分野から、10名の審査委員により、2段階にわたる書面審査で選考を実施しました。両方で310件の審査があり、研究助成6件、若手（45歳未満）研究奨励助成10件が採択されました。いずれも採択率が5.2%という、きわめて厳しい競争結果になりました。審査の基準としては、科学的に優れた研究であることに加え、同点であれば、独立した研究室立ち上げ中の若手、さらには女性研究者の優先を考慮しました。上位にランクされた研究申請に関しては、選考委員10人で、活発な議論を交わしました。この議論は、感染と血液の両分野の研究の価値観や研究の進め方について、考え方を共有する場でもあったと思います。

また、これは今後も引き続き議論すべきことですが、大型研究費とは重複しない、挑戦的な研究が優先的に採択される結果になったと思います。

前にも書きましたが、本研究助成は、数年後に、感染症・血液の領域において、50人近い研究者が助成を受けることとなります。その方々が、日本の、あるいは世界の感染症・血液研究の一翼を担う成果ならびに人材となることを、目的として、今後も、本研究助成の審査に寄与できればと考えています。

2022年こそは、On site での選考会議や、研究発表会ができることを祈念しています。

選考委員長

熊本大学 国際先端医学研究拠点・拠点長

シンガポール国立大学・教授

須田年生

以上